

## Thinking Rugby ラグビーの面白さの追求

ラグビーは running handling game と言われます。ボールを持って走り、近くの味方に手渡し、遠くの味方にパスして前進して、相手の陣へタッチダウンして点の取り合いをする競技です。ボールは玉子型です。持って走り易く、どちらへ転ぶかわからないというボールは興味の一つのポイントになります。フットボールから進化した競技でキックも大切な要素です。多人数でボールを取り合う形や、変化や組み合わせで相手を交わす競争形式も興味深いものです。プレーの原素として大切な Running, handling, kicking についての必修事項を予習しましょう。

### ・「真っ直ぐ走る」

straight まっすぐ、カーブしない曲がらないということは、ゴールラインに直角であることが最短距離です。straight に走るということは、できるだけ直角に走るということでもあります。「トライへ最短距離を手を振って走れ」という教えは、自由な片手を振って思いきり走りなさいと指示しそれがラグビーの醍醐味だと言っているのです。

### ・「ボールを両手で持つ」ということ・・・

ボールを両手で扱うということは、キャッチングの確実性を増すなど大切なことはいまでもありませんが、さらに考察を深めましょう。

少し前のことですが、ラグビー評論家 Mr. Cedric Venables が初心者に教えるべきことの問いに対して次のように答えています。

When teaching boys to play Rugby it is important to emphasize that tries can only be scored by running with the ball in he hands. As soon as the ball is kicked a running attack is temporarily broken and the initiative is given to one's opponents.

ボールを蹴るのは楽しいものですが、その前に理解しなければならないことがらがあるわけです。「ボールを手で持って行ってこそトライができるのだ」「ボールが蹴られた時、走り勝つ攻撃が壊れ、主導権が失われる」ということです。こんな話が初心者の方の心の中に刻まれるのとそうでないのではプレーヤーとしての将来に大きな差が生まれることは恐ろしい程のものがあると考えられます。

両手でボールを持つということはパスを正確にしたり、キックを正確にするのに必要なことです。また、正面の相手に対しては、左右どちらにパスするか判断に困らせて、タックルのタイミングをずらすのに役立ちます。相手と当たったときは、味方へより確実にパスするのに大切です。ここでキックについて考えましょう。

両手で持つことはキックするとき正確にボールを落とすのに必要です。短いキックや遠くへける時はそれぞれに適切なキック法の条件があります。長い相手陣へ蹴り込む場合は別として、目的点（人）へ正確にけることによって必ず味方が再びボールを支配できるようなキックが要求されます。ボールをまえへ投げてはいけないルールのもとで、前へボールを蹴る飛び道具はフットボールの面白さを残したものです。場外へボールを蹴り出すことでゲームを切断するタッチキックを、作戦的に使用する間違った考えが広まりました。

running handling game におけるキックは、足によるパスと言えるものです。ロングキックで一挙に相手陣に迫る作戦も、トライの可能性が高まるだけで10秒あればどこからでもトライすることができるので、プレー継続の果てに防御を崩す可能性の方が高いのです。

タッチキックを戒める22m以内からのキックの制限もその意図は同じです。古くは次のようなローカルもありました。

an experiment is to be made which forbids kicking into touch except from one's own half of the field

ボールを両手で持つことは、相手とぶつかってボール落とさないために両手でしっかり持つという考えより、全力で走るには、ボールを片手で抱えて、捕まれば半身で相手と当たる技術の熟練により確度をあげるのが有効ですので普通の方法として行われています。ハンドオフなどボールを片手で持たないといけないこともありますが、それらはボールを両手で持って大切に取り扱うという心の土台の上にこそ生きるプレーです。

### ・ [Royalty and Teamwork]

playing Charter はラグビーにとって大切なこととして、courage, loyalty, sportsmanship, discipline, teamwork を掲げています。

royalty は国家に対する忠誠心でないことは勿論です。キャプテンを中心としてその統率のもとに戦う個人の一致団結することを誓う忠実心でありその実行力です。teamwork はチームとして一致協力して戦う意識と献身的努力をいうのです。

多人数競技 running handling game ラグビーでは、一つのボールを15人で扱う協同作業の中で、孤立的な独善的なプレーは百害あって一利無いことを日常の練習で心掛けていなければなら

りません。同人数のプレーヤーがバランスを崩しあう方法が問題であって繋ぎ方やダミーの方法が問題です。相手の分散をはかるステレオタイプも必要です。これらのことは個人的な上記の走り方やボールの持ち方にもその基礎として共通することです。

・「立ってプレーする」

running handling game 立っていてこそできること楽しめる競技です。地上に横たわるプレーヤーが多いし立ち上がることが緩慢な現実を打破しなくてはなりません。

競技規則第 14 条の定義に明確に宣言されています。

The game is to be played by players who are on their feet.

「競技は立っているプレーヤーによってプレーされるものである」

地上に横たわっているプレーヤーは「転がっている石と同じ」と考えるのが昔の常識でした。迷いこんできた犬にボールが当たったりしてもゲームはそのまま進行しました。プレーヤーが蹴躓くようなことがあっても横たわっているプレーヤーは文句を言うことは出来ませんでした。今の常識は大分違います。相手に捕まったら何の抵抗も反省もなく地上に横たわり、更に上に倒れ込んでくる味方と協同してボール確保に努めるような行動は、味方の為に貢献しているという自信さえ察しられ残念なことです。ボールが停滞しないようにボールを持って走り、タックルされ、倒れ、ラック形成の過程について反省と改善が必要です。捕まる前にステップやハンドオフによる捕まらない努力と瞬時に倒れないようにスピートを落とす当り方や、ボール生かすようなボディコントロールも必須事項です。パスができるならば必ずしなければなりません。パスができなくて倒れる以外に仕方がないこともあります。そんな時のために、ルールはボールの置き方を指示しています。競技規則 14,15 条を熟読しましょう。プレーがスムーズに継続するように明示されています。反則行為で途切れることなく、ミスやタッチからのクラムやラインアウトが少なく、プレーが継続することが面白いラグビーの条件であり、勝つ方法でもあるのです。

2008. 12. 06

西川 義行